

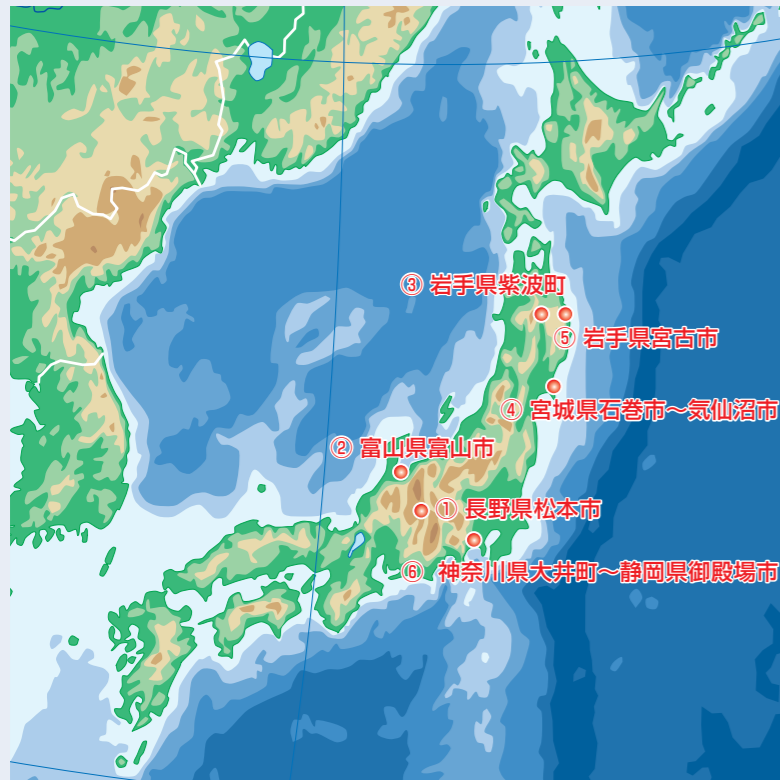
# 「土木施設をいっつくす」対象施設データ

Data of Facilities Covered in "Using Civil Engineering Facilities Completely"

特集  
土木施設をいっつくす

Consultant会誌編集専門委員会

## 取材位置図



- ① 釜トンネル
- ② 富岩運河
- ③ 山王海ダム
- ④ 気仙沼線BRT
- ⑤ 田老の防潮堤
- ⑥ 東名高速道路(大井松田IC~御殿場IC)

## 土木施設年表

【年号】	【歴史】	【対象施設の転機】
大正	1910 1912: 大正に改元	
	1915 1914: 第一次世界大戦勃発 (~1918)	
	1920 1923: 関東大震災	
	1925 1925: ラジオ放送開始、(男子) 普通選挙法成立	
	1930 1931: 満州事変勃発 (1932~1945: 満州国が存在)	1927 釜トンネル 開通
昭和	1935 1937: 日中戦争勃発	1935 山王海ダム 完成
	1940 1941: 日本軍、真珠湾攻撃 (太平洋戦争勃発)	1937 釜トンネル ルート変更
	1945 1945: 第二次世界大戦終了 (ドイツ・日本降伏)	1952 富岩運河 完成
	1950 1950: 朝鮮戦争勃発 (~1953) / 1953: テレビ放送開始	1957 気仙沼線BRT 開通
	1955 1956: 国連加盟 / 1958: 東京タワー完成 / 1959: メートル法完全実施	1958 田老の防潮堤 完成
	1960 1964: 新幹線開業、東京五輪開催	1969 東名高速道路(大井松田IC) 開通
	1965 1965: 日韓基本条約	1979 富岩運河 埋立案浮上
	1970 1972: 沖縄復帰、日中共同声明 / 1973: 石油危機 (狂乱物価)	1991 釜トンネル 旧上り線を下り線に転用
	1975 1975: 沖縄海洋博開催 / 1978: 成田空港開業	1997 富岩運河 環水公園部分開園
	1980 1980: モスクワ五輪不参加 / 1982: 東北新幹線・上越新幹線開業	2001 富岩運河 嵩上げし親子ダムで運用
平成	1985 1985: プラザ合意 (円高急激進行) / 1986: バブル経済 (~1991)	2002 釜トンネル ルート変更
	1990 1991: 湾岸戦争	2005 釜トンネル ルート変更
	1995 1995: 阪神大震災	2011 富岩運河 水需要の増加
	2000 2001: アメリカ同時多発テロ / 2002: 日韓共催、サッカーW杯開催	2011 釜トンネル 被災
	2005 2005: 愛知万博開催 / 2008: リーマン=ショック / 2009: 民主党政権誕生	2011 富岩運河 被災
令和	2010 2011: 東日本大震災	2011 富岩運河 被災
	2015 2016: 熊本地震	2011 富岩運河 被災
	2020 2020: 新型コロナウイルス世界的流行	2011 富岩運河 被災
2021: 東京五輪・パラ五輪開催 / 2022: 北京五輪・パラ五輪開催予定	2011 富岩運河 被災	

歴史監修: 金本浩二 (昭和第一学園高等学校 社会科教諭)



### ①上高地の玄関口「釜トンネル」

上高地を訪れる際に必ず通る釜トンネルは、工事資材運搬用トンネルにはじまり、渋滞が多発する片側交互通行の時代を経て、2005年に現在の姿になった。使いつくされてきた証しが曲がりくねった線形に残る。



### ②富山市都市計画のはじまり「富岩運河」

現在は一部が環水公園となっている富岩運河だが、一時は埋立案が浮上するほど劣悪な環境であった。時代の変化に応じて地域に貢献してきた歴史を紐解く。



### ③平安の祈りを受け継ぐ「山王海ダム」

水不足による争いが頻発した地域に平和をもたらした山王海ダムは、日本で唯一とされる親子ダム方式で貯水容量を確保している。地理的条件を活かして既存施設を有効利用する知恵を学ぶ。



### ④未来へ新化する「気仙沼線BRT」

東日本大震災で壊滅的な被害を受けたJR気仙沼線は、BRT (バス高速輸送システム) に生まれ変わって地域の移動手段を担い続けている。この選択の背景と新化する姿を紹介する。



### ⑤守り、伝え、結ぶ「田老の防潮堤」

X字型に配置された防潮堤により市街地が二重に守られる田老地区。東日本大震災の津波を耐えた旧第一防潮堤は、嵩上げされて二線堤の役割を担いつつ、忘却を防ぐ伝承施設としても人々を守り続けている。



### ⑥ルート選択のある「東名高速道路(大井松田IC~御殿場IC)」

東京から静岡方面の下り線は、大井松田IC付近から右ルート、左ルートに分かれ、御殿場IC付近で合流する。このようになった背景には、山間部で車線を増設するための発想の転換があった。

<写真提供>

左上: 高見元久 右上: 富山県生活環境文化振興課  
左中: 加地智彦 右中: 山上英之  
左下: 山上英之 右下: 井村優花